

青少年の体験活動の推進「体験活動推進プロジェクト」 自己肯定感向上プロジェクト

たびうさぎファミリー

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

【事業のポイント】

- 親の体験量・自己肯定感の向上が子供の体験量・自己肯定感の向上に影響を与える。
- 「わかる」「できる」体験と他者からの肯定的評価が自己肯定感を高める。
- 親子事業として効果的なプログラムは、「食」、「運動」、「親が本気になる活動」、「子供が選択できる活動」があげられる。



登山では、自然と親子がふれあう。

1. 企画

(1) 事業実施の背景

平成28年10月に文部科学省に設けられた「我が国の子供の意識に関するタスクフォース」では、我が国の子供たちの自己肯定感が、諸外国に比べて低い現状が分析されており、平成29年6月の教育再生会議第十次提言において、我が国の子供たちの自己肯定感が低い状況を改善することが重要であると、自己肯定感をバランスよく育むために様々な体験活動を積極的に推進すると明記されている。

こうした現状から、親子事業をとおして自己肯定感を培う効果的な親子の関わり方や事業展開について整理し、幼児教育関係者に広く周知することが、国立青少年教育施設としての重要な使命である。

(2) ねらい

- ・幼児や小学校低学年の児童とその保護者が、「遊んで身につく36の基本的な動き」を活用した運動をはじめとした、様々な体験活動をとおして、親子の絆を深める。
- ・様々な体験活動を実施し、家族の体験を支援することにより家庭教育の一助とする。
- ・幼児や小学校低学年の児童とその保護者が様々な体験や関わる事業をとおして、自己肯定感を培う効果的な事業展開のポイントを整理し、青少年教育施設及び幼児教育施設等に普及啓発する。

2. 実施概要

(1) 実施主体(運営体制)

【事業実施主体】

国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職 安達 義徳
事業推進係 片倉 望
事業推進係 菅原由里香

【自己肯定感向上プロジェクト推進委員会】

委員長 布施 司(美瑛町立美沢小学校長)
委員 川田 学(北海道大学大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター 准教授)
委員 佐藤 秀子(学校法人美瑛青葉学園 青葉幼稚園園長)
委員 五十嵐秀介(北海道立生涯学習推進センター 主幹)
委員 中田 和彦(国立大雪青少年交流の家 次長)
事務局 渡部 徹(国立大雪青少年交流の家 所長)
事務局 国枝 知(国立大雪青少年交流の家 主任企画指導専門職)
事務局 安達 義徳(国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職)

(2) 開催実績

月 日	内 容
7月7日～8日	たびうさぎファミリー事業「親子で登山を楽しもう」実施
8月1日	第1回自己肯定感向上プロジェクト推進委員会議開催
9月15日～16日	たびうさぎファミリー事業「親子で作って楽しもう」及び推進委員視察実施
9月27日	第2回自己肯定感向上プロジェクト推進委員会議開催
10月27日～28日	たびうさぎファミリー事業「ほかほかごはん、いただきまーす」実施
1月19日～20日	たびうさぎファミリー事業「冬だ元気に外遊び」実施
1月29日	第3回自己肯定感向上プロジェクト推進委員会議開催
2月14日	広報資料『親子体験』のススメを市町村や幼児教育施設、青少年教育施設に頒布

(3) 具体的な取組の概要

【たびうさぎファミリー事業】

親子での体験活動を行う「たびうさぎファミリー事業」とおして、「親子の関わり」「効果的なプログラム」を検討し、家庭教育力の向上や幼児の自己肯定感を向上に資する事業を展開できるようにポイントを整理する。

○実施プログラム(調査対象プログラム)

①「親子で登山を楽しもう」

・十勝岳軽登山、カレー作り、親子でゆったり過ごす時間を設けた(親子の時間を作りに来る参加者もいる)

②「親子で作って楽しもう」(委員視察事業)

・ダンボール工作(遊具)、農家の協力による農作物収穫体験及び交流の家でのじゃがいも料理

③「ほかほかごはん、いただきまーす」

・鮭さばき体験(調理の下ごしらえ)、羽釜ごはんでのおにぎり・焼き鮭・漬物づくり、プールで水遊び

④「冬だ元気に外遊び」

・イグルー作り、手打ちうどんづくり、家族で運動遊び

【自己肯定感向上プロジェクト推進委員会】

・手順①調査・研究の目的、内容の確認・共通理解、②事業視察、③事業やアンケートの詳細検討、④まとめの流れで実施する。

・たびうさぎファミリー事業において調査した内容を分析・協議し、事業・調査の改善と報告書のまとめを行う。

・事業参加者と比較するため、同様のアンケートを地元の幼稚園・保育園に協力してもらい調査をする。

【事業での工夫】

・親子の体験活動で、親子の効果的な学びの場とするために、

①親子と一緒に活動する

②親が子供の活動を見守る場面を設ける

③親も本気になる活動を取り入れる

④子供が活動を選択できるようにすることで、子供が意欲的に活動できるような環境を作る

⑤親子の関わりが多い「食」や「運動」等のプログラムを多く盛り込んだ

⑥子供が達成することができるとともに、親が子供に関わる機会が多くなる「わかる」「できる」活動を取り入れる等の工夫があげられる。

(4) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

○親の体験量、自己肯定感が子供の体験量、自己肯定感に影響することが考えられることから、「親子事業」とおして、親の体験量も増やすことで、親子が体験をとおした学びの機会を得ることが重要である。

○親子で「わかる」「できる」が共有される活動を実施することが、子供が達成感を味わう機会が増加し、自己肯定感を育むには効果的である。

○体験活動事業をとおして、「子供の運動」、「親子の関わり」、「親子の様々な共通体験」をすることができ、それぞれの活動での学びが、自己肯定感や運動能力、家庭の教育力の向上に資する。

3. 成果と課題

(1) 事業成果

- 親子での体験活動とその過程における関わり方が幼児の自己肯定感の形成に影響を及ぼす
 - 「IKR調査」からは、統計学的に有意な結果は得られなかった。この要因として、推進委員からは、①幼児の能力(理解力や語彙力等)に差があること、②幼児の経験にそぐわない質問項目(洗濯機がなくても、手で洗濯できる等)があること、③保護者による聞き取りの仕方の差異があること等の指摘があった。
 - 「子供の体験活動や自己肯定感に関する調査」からは、親子での体験が多い保護者ほど、自分の子供を肯定的に捉えている(得意なことがある、物事に挑戦する気持ちを持っている等)傾向や、子供を肯定的に捉えている保護者ほど、子供の頑張りをはめる接し方になる傾向がみられる等、親子での体験活動は、子供が保護者から認められる、ほめられる機会となり、子供の自己肯定感の形成により影響を及ぼすことが考えられる。
 - 同調査からは、事業に参加した保護者は、地域の一般の保護者に比べて、子供と一緒に体験や自身の幼少期の体験が少ない傾向や、子供を肯定的に捉えることが低い傾向がみられ、保護者の体験量が子供の体験量や関わり方に影響を与えることも考えられる。
- 親子での体験活動の内容や仕方によって保護者の気づきが異なる
 - 活動中や事業後の聞き取りでは、保護者が経験したことがない体験活動(軽登山、魚をさばく等)は、保護者が本気で取り組むことができ、子供と一緒に楽しむことができるとの声が多い。
※ 本事業においては、「記録への挑戦」や「食」がキーワード
 - 親子が一緒に行う体験プログラムと、保護者が子供の活動を見守るものを観察し、比較してみると、親子が一緒に行うプログラムの場合、楽しく、コミュニケーションが活発になる一方、必要以上に手を貸してしまう傾向が見られ、保護者が子供の活動を見守るプログラムの場合、活動している様子を見て、子供の新たな側面に気付く機会になるものの、子供の失敗を恐れ、つい、口を挟むことも見られる。
- 事業等での活動における親への働きかけ
 - 親子の関わりがあまり見られない親に対して、ボランティアや職員がつなぎ役となって、子供との教育的な関わりを促していくことが必要である。

(2) 事業運営上の課題

- 実際に幼児に対してIKR調査を行ってみて、幼児が自分で質問に答えて記述するのは不可能であり、絵を描かせる等の方法も実施してみたが、そのあとに専門家が絵について質問する必要があるため、事業の評価指標としては、実施が難しい。IKR調査に代わる幼児向けの調査方法があるとよい。現状においては、事業での幼児の変容を調査するには、見取りや保護者への定性的な聞き取りしかないと考えられる。
- 他には、事業での活動の動画や音声を記録し、専門家やAIに分析させるなど、幼児が直接回答しなくても定量的に評価できる仕組みを開発する必要がある。

(3) 事業成果の普及啓発の課題

- 親子の体験活動を推進するチラシを市町村や幼児教育施設、青少年教育施設等に配布し、親子の体験活動の場づくり(ノウハウの普及)を進める必要がある。
- たびうさぎファミリー事業をとおして、親子の関わりを重視した新たな事業プログラムを開発する必要があり、今後検討していく。

4. 団体プロフィール

当施設は、北海道のほぼ中央に位置する美瑛町にある国立の青少年教育施設です。

日本最大の面積を誇る「大雪山国立公園」にそびえたつ十勝岳の麓に位置する当施設では、その恵まれた自然環境の中で、グループや集団での自然体験、交流体験、芸術・文化体験など様々な体験活動を行うことができます。

特に夏場の登山・冬場のクロスカントリースキー・火山の恵みでできた天然白金温泉は利用者の人気を集めています。



十勝岳連峰が眼前に連なる当施